**問いをもち、学びを未来へつなぐ４日間 ～広島・京都・奈良での「ほんもの体験」と探究の記録～**

附属中学校３年生（8期生）は、10月20日（火）から23日（金）までの３泊４日、関西方面（広島・京都・奈良）へ研修旅行に行ってまいりました。

本校の３年間の校外学習テーマである「日本を知る」のもと、生徒たちは単に有名観光地を巡り知識を蓄えるだけでなく、サイエンスの視点から多面的に歴史・文化・科学技術・社会を捉え、自ら問いを立てて探究する「ほんもの体験」に臨みました。

**■１日目（10月20日）：広島【科学技術と平和、そして復興の光】**

初日は新幹線で広島に到着後、原爆ドーム、平和記念公園、そして平和記念資料館を訪問しました。資料館の展示や被爆の実相に深く向き合い、一人ひとりの尊い命や暮らしが奪われた現実に想像をめぐらせました。生徒たちは、科学技術が人々の幸福をもたらす力を持つ一方で、その扱い方によっては惨禍を引き起こすという歴史の現実を静かに見つめていました。

午後は広島市内での班別フィールドワークを実施しました。戦禍を乗り越えて見事に復興と発展を遂げた現在の広島の街並みに目を向け、歴史や文化に直接触れることで、科学技術と平和な社会のあり方について思いを巡らすことができました。





**■２日目（10月21日）：広島大学原爆放射線医科学研究所【科学・医学と倫理に向き合う】**

２日目の午前は、広島大学原爆放射線医科学研究所を訪問しました。放射線が人体に及ぼす影響に対して医学がどのように向き合い、健康を守るための研究を重ねてきたのか、また現代の放射線事故の現場で医療チームがどのような役割を果たしてきたのかについて、実際に業務に従事されたドクターからの貴重な講話を聴くことができました。

さらに、実物の放射線測定装置に触れる体験学習もさせていただきました。「科学技術をいかにして人類の幸福に役立てるか」という根幹の問いに対し、科学や医療に携わる者の責任と使命、そして倫理観を自分自身の将来の問題として捉える貴重な機会となりました。午後は次の探究の場である京都へ移動し、翌日からの活動に向けた準備を整えまし

た。



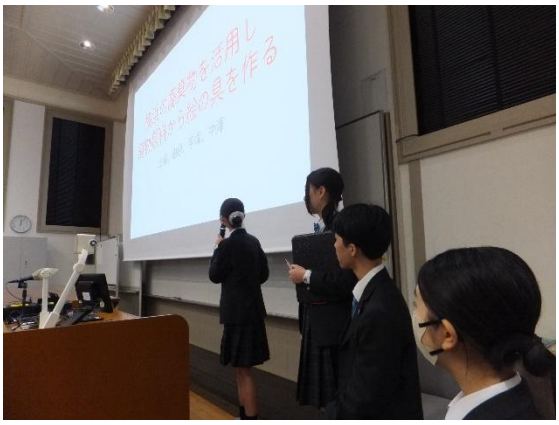


**■ 3 日目（10 月 22 日）：京都大学【SS 課題探究の発表と学びの相対化】**

3 日目の午前中は、京都大学を訪問しました。大学教員による「文科と理科の違いや大学での学び、アカデミアに進むとは。」という内容の基調講演や、学びコーディネーターを務める大学院生による刺激的な模擬授業を受けた後、生徒たちが取り組んできた課題探求「SS（サイエンススタディーズ）」の研究内容や成果を発表しました。

博士課程の大学院生に向けてチームでプレゼンテーションを行い、第一線で研究に励む研究者から質の高い専門的な質問や指導・講評をいただきました。日頃の成果を試す緊張感と、専門的な知に触れる対話を通して、自らの探究を客観的に問い直して「学びの相対化」ができ、更なるステップへとつなげることができました。午後はその学びを胸に、京都・奈良市内でのフィールドワークへと繰り出しました。



**■ 4 日目（10 月 23 日）：京都・奈良フィールドワーク【仮説の検証と「ほんもの体験」】**

最終日は、京都・奈良エリアでの班別フィールドワークを中心に展開しました。生徒たちは事前学習で立てた目的や仮説に基づき、公共交通機関を利用して自分たちで計画したコースを巡りました。

歴史的建造物や街並みの観察を通して、都市や文化の変遷、人々の信仰と科学技術の発達の関係性を現地で直接検証していきました。途中で予想と異なる事実や発見に遭遇しても、仲間と熱心に対話し、試行錯誤しながら理解を深めようとする頼もしい姿が各所で見られました。ただ知識を得るだけでなく、集団生活の中で互いの信頼関係を深め、自主的に判断して行動する大きな成長が実感できる時間となりました。

**■ 結び：「過去から学び、現在を確かめ、未来を創造する」**

あらかじめ用意された答えをなぞるだけではなく、戸惑いや失敗、予想外の発見も含めて、自らの頭で考え、心を動かした「驚きと感動による知の探究」の 4 日間となりました。生徒たちは専門的な知や歴史の厚みに触れ、「科学者として、また社会の一員としてどう生きるか」という未来への視点を獲得しました。

事後学習では、京都大学でいただいたアドバイスや現地での発見を SS の課題探求をはじめとする日常の学びと下級生への研修発表会でフィードバックして、更なる探究活動を展開していきます。ここで得た「ほんもの体験」と自ら問いを立て続ける姿勢は、これからの学校生活や進路選択における確かな糧となるはずです。

最後になりますが、本研修旅行の実施にあたり温かいご指導・ご協力をいただきました関係機関の皆様、そして日頃より温かく生徒を見守り送り出してくださった保護者の皆様に、心より感謝申し上げます。